

奥州市議会
2月定例会

市民のねがいは“子どもを産めるまち”

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市議会2月定例会、2月22日は、佐藤美雪議員が一般質問を行い、市長の市政運営について質しました。その概要についてお知らせします。

「新医療センターに産科設置は難しい」という市長の方針が12月議会でも明らかとなり、市民の間から「もう市内で子どもが産めないのか」という不安の声が広がっています。

佐藤美雪議員は、市長が選挙公約で掲げた周産期医療に対する施策についての取り組みや今後の見通しについて質問しました。

助産師、看護師の教育、産科医の招致を謳った母子周産期センター（仮名）構想は？

倉成市長は、公約に掲げていた構想について、「新医療センター基本プランに反映していく。産前産後ケア、思春期外来



などへ対応する専門医、または市内の産科医の協力など、つめていきたい」と述べるにとどまりました。

全国に向けて産科医を

求める発信をすべき！

佐藤議員は、市民の切実な願いである産科設置へ、できる限りの施策に取り組むべきと主張し、市長を質しましたが、「分娩機能は想定しない。現実的には厳しい」という市長の認識は変わりませんでした。

ジェンダー平等

公共施設トイレへ
生理用品の設置を！
当たり前の社会へ

佐藤議員は、この間も一般質問で取り上げ、新婦人や企業からの生理用品の寄付もあり、小中学校女子トイレへの設置が実現しました。更なる充実を求め、市役所や地区センターなど公共施設トイレへの設置を求めました。

現在、設置はされていない

当局は、設置されていない現状を踏まえ、地区センターにおいて年に数件、生理用品の有無について相談などが寄せられた実態を答弁。「今後も事務室に設置し、対応する」と述べるにとどまりました。

佐藤議員は、「困ったら取りに来て」と言わんばかりの冷たい対応に、男女共同参画の理念に基づいた検討を、と詰め寄りました。



女性の視点を活かした

災害対応が必要！

また、佐藤議員は能登半島地震や東日本大震災の教訓から、災害避難時、女性や子ども、高齢者への配慮が必要であることを主張。災害担当部署や市防災会議の女性の参画状況と女性の視点を活かした避難所運営、災害備蓄品について質問しました。

担当部署に女性職員はいない
配置に向けて検討したい

市民環境部長は、担当部署の女性職員配置について、課題と捉え、男女共同参画の本旨であることを十分に配慮し、検討したいと述べました。

女性の視点を活かした災害対応については、防災復興ガイドラインなどを確認しながら、再点検を行い、改善を進めていきたい、と述べました。

新医療センターに 産婦人科創設をめざす市民集会

3月30日（土）

13:30～15:30

水沢地区センター
（視聴覚・研修会）

赤ちゃんの声
が聞こえない
奥州市！

ぜひ、
お出かけ
ください！